

# ホタルに会うために

ホタルはれっきとした野生生物ですから、花火を見に行くようなわけにはいきません。しかし、少しコツを知っていれば、ホタルに会うことはそんなに難しいことではありません。



## ☆明るいうちに現地に行く

ホタルはみなさんが想像しているほどめずらしい昆虫ではありません。特に、ゲンジボタルはすんでいる環境もわかりやすく、昆虫の中でも、見つけやすい方です。しかし、多くの人は暗くなってから、自動車に乗って、ホタルを見に行こうとします。暗くなってからでは、そこがホタルのいそうな環境なのか、わかりません。また、自動車に乗っていると、ホタルのかすかな光には気付かないでしょう。

## ☆歩く

現地についても車の窓からのぞいているだけでは、何もわかりません。少なくとも10分以上、現地を歩きましょう。ゆっくり歩くことで、いろんなものが見え、まわりに生えている植物、鳥や虫、これらは、ホタルの生息環境を知る上で大変重要な情報です。このようなフィールド経験の積み重ねが、ホタルを良く知ることにつながります。

## ☆地図を読む

山、川、田んぼが1ヶ所にそろっているところ。これがホタルのいるところ。多くの昆虫と同じで、ホタルは、雑木林も田んぼもないような市街地にはすめせん。しかし、少し郊外に出れば、ほとんどすべての川にゲンジボタルはすんでいます。地図を広げ、山が迫っていて、まわりに田んぼがあるようなところを探します。出かける前に、あらかじめ計画をたてておきましょう。

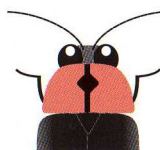
## ☆マナーを守る

ホタルは人里の昆虫です。何より重要なことは、観察のマナーです。私有地に無断で立ち入る、ごみを捨てる、大声で騒ぐ、当たりかまわず懐中電灯を向ける、などなど、そこで暮らしている方の迷惑にならないよう、マナーを守りましょう。

## ☆季節、時刻、天候

ゲンジボタルは、6月に多く見られますが、地域によっては発生時期が異なります。何度か足を運んで、いつごろに多く見られるのか調べてみるのもよいでしょう。ホタルは多くの場合、日没から30分ほど経過し、あたりが暗くなった頃から飛び始め、その後1時間くらいの間、もっとも活発に活動します。風のない蒸し暑い日に活発に活動し、風の強い日や肌寒い日にはあまり飛びません。よほどの土砂降りでない限り、雨の日でも活動します。

成虫が光る3種のホタルの見分け方



ゲンジボタル

体が大きい  
黒いスジは細く  
途中に黒い斑



ヘイケボタル

胸部は丸くてふくらむ  
黒いスジは太い



ヒメボタル

胸部は平たい  
黒いスジは逆三角形  
(変異がある)

日本には50種近く、兵庫県には10種のホタルが記録されています。10種のうち、成虫が夜行性で発光するのは3種です。しかし、他の7種も、幼虫やさなぎは発光します。ゲンジボタルを観察できたら、次は、いろんなホタルや幼虫の観察に挑戦してみましょう。

県立人と自然の博物館発行「プチ図鑑 兵庫の蛍」より引用

NPO法人北はりま田園空間博物館は道の駅北はりまエコミュージアムの収益を活動資金にしています。

地域まるごとミュージアム



特定非営利活動法人

北はりま田園空間博物館

〒677-0022 兵庫県西脇市寺内天神池517-1  
北はりま田園空間博物館総合案内所  
(道の駅北はりまエコミュージアム)  
TEL 0795-25-2370 FAX 0795-22-2123  
URL <http://www.k-denku.com>  
E-mail [jk@k-denku.com](mailto:jk@k-denku.com)